

「文化間移動をする子どもの育ち」を支える教育人材の育成

中川祐治(福島大学)・和泉元千春(奈良教育大学)・
仲本康一郎(山梨大学)・齋藤ひろみ(東京学芸大学)

本日の内容

- (1) 趣旨と枠組みについて (中川)
- (2) 事例報告1 地方都市における日本語指導担当者の研修 (和泉元)
- (3) 事例報告2 教員養成課程における日本語教育実習 (仲本)
- (4) 質疑応答・ディスカッション (司会: 齋藤)

背景・趣旨

- ・「文化間移動をする子ども*」の増加
*学齢期に海外から日本に来て日本で教育を受けている子どもたちや、日本生まれ・日本育ちであっても両親が民族的背景をもつ子どもたち、国際結婚家庭の子どもたち、あるいは海外生活の長い日本人家庭の子どもたち (齋藤・佐藤編, 2009)
 - ・平成29(2018)年度より、公益社団法人日本語教育学会 文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の開始
- ⇒本教育領域に関わる人材にはどのような資質・能力が求められ、どのように育成できるのかについて考える

枠組み① (2018年版)

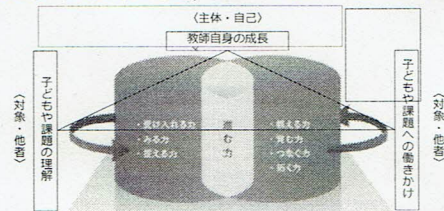
- ・7つの「する」力 (日本語教育学会, 2018)
- 日本語指導担当教員、学校管理職、教育委員会指導主事、コーディネーター、地域のNPO等の支援者ら20名にインタビュー調査を行い、資質・能力を7つの「する」力として整理
「知る」力、「教える」力、「見る」力、「つなぐ」力、「待つ」力、「受け入れる」力、「進む」力
- e.g. 「見る」力: 子どもに対する温かいまなざしだけでなく、想像力や分析的な視点、子どもを取り巻く環境や背景、文脈といったものに対する多面的、複眼的な視点も含まれる
子どもを見極める力 (分散・管理職) / つまずきの原因を多角的に考えられる資質能力 (分散・教委派遣指導員) / その子やその子の周りの状況を見る力 (分散・教委派遣指導員) / 子どもが何を求めているかを想像する力 (分散・教委派遣指導員) / その子の強み、弱みを見抜く力 (集住・非常勤講師) / 子どもの抱えている課題を把握する力 (分散・支援団体派遣の支援者) / 子どもをきちんと見て、子どもの困り感や喜びに気づく力 (集住・その他)

枠組み① (2018年版)

- ・課題
- 7つの「する」力 (「知る」力、「教える」力、「見る」力、「つなぐ」力、「待つ」力、「受け入れる」力、「進む」力) を知識・技能・態度の3つの要素で整理したものの、相互の関係性や構造までは言及できなかった
- 「語られていない」力をどうするか?
e.g. 市民性教育、社会的公正さ、社会的行動力

枠組み② (2019年版)

- ・8つの力 (日本語教育学会, 2019) ⇒ 育成・成長モデル



枠組み② (2019年版)

・「～できる」で記述する⇒「する」力を「できる」力に

- ☑ 教える力 —— 子どもの実態を踏まえて指導や教材等の開発を行うことができる。
- ☑ 育む力 —— 外国人児童生徒と国籍の子どもの学びを育むことができる。及び、異文化理解を育むことができる。
- ☑ つなぐ力 —— 子ども、学習指導を豊かするために、関連する組織や人と連携することができる。
- ☑ 拓く力 —— 異なる立場の人々との関係づくり、外国人児童生徒等の教育機会、多様性に関わった領域づくりに貢献することができる。
- ☑ 受け入れる力 —— 外国人児童生徒等の持つ多様な価値観を認めらるることを目指すことができる。
- ☑ みる力 —— 文化差移動に関与する知識を踏まえて、外国人児童生徒等の状況を見ることが出来る。
- ☑ 捉える力 —— 社会的、歴史的な文脈に外国人児童生徒等の学習や成長を捉え得ることができる。
- ☑ 進む力 —— 自己の成長・発達活動を通じ、外国人児童生徒等の学びを促すことができる。

枠組み② (2019年版)

・具体的に求められる力

資質・能力		具体的に求められる力	対応する内容
教 育 者 の 力	外国人児童生徒等の理解や関わりを促進する力	外国人児童生徒等の理解や関わりを促進することができる。	国際理解力・社会力
	外国人児童生徒等の育む力	外国人児童生徒と国籍の子どもの学びを育むことができる。	国際理解力・社会力
	外国人児童生徒等のつなぐ力	外国人児童生徒等の持つ多様な価値観を認めらるることを目指すことができる。	国際理解力・社会力
	外国人児童生徒等の拓く力	外国人児童生徒等の教育機会、多様性に関わった領域づくりに貢献することができる。	国際理解力・社会力
学 校 の 力	外国人児童生徒等の受け入れる力	外国人児童生徒等の持つ多様な価値観を認めらるることを目指すことができる。	国際理解力・社会力
	外国人児童生徒等のみる力	外国人児童生徒等の状況を見ることが出来る。	国際理解力・社会力
	外国人児童生徒等の捉える力	外国人児童生徒等の学習や成長を捉え得ることができる。	国際理解力・社会力
	外国人児童生徒等の進む力	外国人児童生徒等の学びを促すことができる。	国際理解力・社会力

枠組み③ 異文化間能力

- ・「個々が持つ知識、技能、態度にもとづいて、異文化環境で効果的かつ適切にコミュニケーションをとる能力」 (Deardorff, 2006)
- ・「認識の枠組みを適切に変更し、文化的コンテクストに行動を適応させる能力」 (Deardorff, 2006)
- ・「異文化環境下で仕事や勉学の目標を達成し、文化的・言語的背景の異なる人びとと好ましい関係をもち、個人にとって意味のある生活を可能にするための能力や資質」 (山岸, 1995)
- > 「知識・技能・態度」「(異)文化的コンテクスト」「コミュニケーション」「行動」「適応」「関係」「認識の枠組みの変更」
- 「異文化市民 (intercultural citizenship)」「異文化対話 (intercultural dialogue)」の重要性 (バイラム, 2011)

議論の観点

- ・なぜ「資質・能力 (8つの力)」を考えるのか？
 - ⇒どんな教育人材像を目指すのか？
 - ⇒どんな教育/社会を目指すのか？
- ・なんのための「資質・能力 (8つの力)」か？
 - 目指すべき目標
 - 省察や自己評価のための枠組み
- ・養成・研修において、目標/内容/活動/評価とどう結びつか？
- ・教員の発達・成長 (キャリア形成) とどう関連づけるのか？
 - 入職前後のスタンダード
 - 教師のライフコースにおける「外国人児童生徒」との出会い